

上丹生鷺谷戸遺跡

(主)下仁田安中倉渕線(上丹生工区)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



(主)下仁田安中倉渕線(上丹生工区)事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

11011

群馬県富岡土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

上丹生鷺谷戸遺跡

(主)下仁田安中倉渉線(上丹生工区)事業に伴う
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2021

群 馬 県 富 岡 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、群馬県富岡市上丹生に所在し、社会資本総合整備（活力・一般・補正）（主）下仁田安中倉測線（上丹生工区）事業に伴い発掘調査が行われた上丹生鷺谷戸遺跡の調査報告書です。本遺跡の調査は、群馬県富岡土木事務所の委託を受け、令和2年7月に実施いたしました。

今回の調査では、古墳時代の竪穴建物や土坑・ピットが調査されました。この地域での竪穴建物の調査例はあまり多くなく、この地にも先人たちの生活が展開していたことがわかりました。

これらの調査成果は、古代の富岡市の様子を知るうえで貴重な成果の一つになると考えております。そして、この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが発掘調査から報告書作成にいたるまで、群馬県地域創生部文化財保護課、富岡市教育委員会および地元関係者の皆様には、多大なるご協力とご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序といたします。

令和3年7月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、令和2年度(主)下仁田安中倉渦線(上丹生工区)事業に伴う上丹生鶴谷戸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 所在地 群馬県富岡市上丹生字鶴谷戸 2083、2085-1
- 3 事業主体 群馬県富岡土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査期間および体制は以下の通りである。
履行期間 令和2年6月1日～令和2年9月30日
調査期間 令和2年7月1日～令和2年7月31日
調査担当 川口 亮(専門員(主任))
調査面積 197.45m²
遺跡掘削請負工事 有限会社高澤考古学研究所
遺構地上測量 アコン測量設計
- 6 整理事業期間および体制は以下の通りである。
履行期間 令和3年4月1日～令和3年5月31日
整理期間 令和3年4月1日～令和3年7月31日
遺物実測・観察表・写真撮影 石器 岩崎泰一(専門調査役) 土師器・須恵器 神谷佳明(専門調査役)
デジタル編集・本文執筆 各遺構の土器の記述 神谷佳明 左記以外 齋田智彦(主任調査研究員・資料統括)
- 7 発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 8 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関よりご指導・ご教示を頂いた。
群馬県地域創生部文化財保護課、富岡市教育委員会

凡　　例

- 1 報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)を使用した。北方位はすべて座標北で、真北方
向角は東偏8° 0'である。
- 2 遺構・遺物の縮尺は、原則として以下の通りとし、それぞれスケールを明示した。
遺構 竪穴建物 1:60 カマド 1:30 土坑・ピット 1:40 遺物 1:3
- 3 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はN—○°—E、西に傾いた場合はN—
○°—Wというように表記した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し
()で表した。
- 4 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 5 本書で使用したテフラの呼称は以下の通りである。
浅間板鼻褐色テフラ As-BP(20,000~25,000年前)
浅間板鼻黄色テフラ As-YP(13,000~14,000年前)
浅間B軽石 As-B(天仁元年 1108年)
- 6 土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財团法人日本色彩研究所色票監修『新版
標準土色帖』を使用した。
- 7 本書で使用した地図は以下の通りである。
国土地理院発行 20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」平成10年発行
2万5千分の1電子地形図「松井田」「下仁田」平成30年発行

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査の経過	
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 発掘調査の経過	4
第4節 整理作業の経過	4
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の地形と立地	5
第2節 周辺遺跡の分布	6
第3章 調査された遺構と遺物	
第1節 調査の概要	9
第2節 遺構と遺物	9
(1)竪穴建物	9
(2)土坑・ビット	11
(3)遺構外出土遺物	15
第3節 調査のまとめ	19

挿図目次

第1図 上丹生鶴谷戸遺跡と群馬県の地勢.....	1	第7図 遺構全体図.....	11
第2図 上丹生鶴谷戸遺跡の位置.....	2	第8図 1号竪穴建物.....	12
第3図 調査区とグリッド設定図・基本土層.....	3	第9図 1号竪穴建物カマドと1号竪穴建物出土遺物.....	13
第4図 遺跡周辺の地形.....	5	第10図 1号土坑と1~7号ピットと出土遺物.....	16
第5図 周辺の道路.....	7	第11図 8~14号ピットと出土遺物、遺構外出土遺物.....	17
第6図 旧石器の調査.....	10	第12図 上丹生鶴谷戸遺跡と周辺遺跡の古墳時代竪穴建物.....	19

表 目 次

第1表 上丹生鶴谷戸遺跡の周辺道路.....	8	第3表 出土遺物観察表.....	18
第2表 土坑・ピット一覧表.....	18		

写真目次

P.L. 1	1 基本上層A上層断面(東より) 2 基本上層B上層断面①(東より) 3 基本上層B上層断面③(東より) 4 基本上層B上層断面④(東より) 5 調査区南側全景(南より)	P.L. 7	1 1号竪穴建物カマド掘方全景(南より) 2 1号竪穴建物出土状態 3 調査区北側全景(南より) 4 1号土坑上層断面(東より) 5 1号土坑全景(東より)
P.L. 2	1 旧石器2号トレンチ全景(南より) 2 旧石器1号トレンチ上層断面(西より) 3 旧石器2号トレンチ上層断面(西より) 4 1号竪穴建物調査風景(南東より) 5 1号竪穴建物全景(北より)	P.L. 8	1 1号ピット・2号ピット上層断面(東より) 2 3号ピット上層断面(東より) 3 3号ピット全景(東より) 4 4号ピット上層断面(東より) 5 4号ピット全景(東より)
P.L. 3	1 1号竪穴建物全景(南より) 2 1号竪穴建物調査風景(西より)	P.L. 9	6 5ピット・6号ピット上層断面(西より) 7 5ピット・6号ピット全景(西より) 8 7号ピット上層断面(西より)
P.L. 4	1 1号竪穴建物全景(南より) 2 1号竪穴建物上層断面A-B' (南より) 3 1号竪穴建物上層断面B-C' (西より) 4 1号竪穴建物カマド上層断面E-F' (東より) 5 1号竪穴建物カマド上層断面G-H' (南より)	P.L. 10	1 7号ピット全景(西より) 2 8号ピット上層断面(東より) 3 8号ピット全景(東より) 4 9号ピット上層断面(東より) 5 9号ピット全景(東より)
P.L. 5	1 1号竪穴建物カマド全景(南より) 2 1号竪穴建物切藏穴上層断面(南より) 3 1号竪穴建物切藏穴・P 1全景(西より) 4 1号竪穴建物P 2上層断面(南より) 5 1号竪穴建物P 2全景(南より) 6 1号竪穴建物P 3上層断面(南より) 7 1号竪穴建物P 3全景(南より) 8 1号竪穴建物床下土坑全景(南より)	P.L. 11	6 10号ピット上層断面(東より) 7 10号ピット全景(東より) 8 11号ピット上層断面(東より)
P.L. 6	1 1号竪穴建物側方上層断面A'-A'' (南より) 2 1号竪穴建物側方上層断面B'-B'' (西より) 3 1号竪穴建物側方全景(南西より) 4 1号竪穴建物カマド掘方上層断面E-E' (東より) 5 1号竪穴建物カマド掘方上層断面F-F' (南より)	P.L. 12	1 11号ピット全景(東より) 2 12号ピット上層断面(東より) 3 12号ピット全景(東より) 4 13号ピット・14号ピット上層断面(東より) 5 13号ピット・14号ピット全景(東より) 6 上丹生鶴谷戸遺跡の現況(令和3年5月撮影) 7 上丹生鶴谷戸遺跡出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

上丹生鷺谷戸遺跡は、群馬県の西部、富岡市上丹生に所在する。

県道下仁田安中倉渕線は、甘楽郡下仁田町大字馬山字竹ノ上と高崎市倉渕町三ノ倉字落合河原をつなぐ全長36.6kmの主要地方道である。

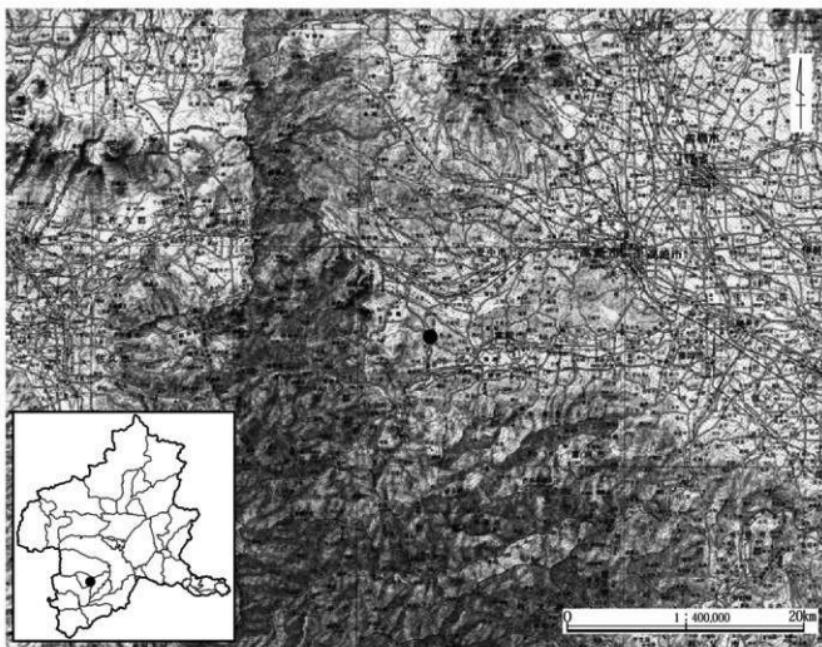
計画は、富岡市上丹生地内的一般県道菅原一ノ宮線との交差点部分から南へ65mの地点から、52.5mにわたって歩道を設置するものである。

工事が計画されている地点は、周知の遺跡として富岡市の遺跡台帳に登録されている(富岡市遺跡番号T272)範囲内に所在する。平成31年2月、群馬県教育委員会文

化財保護課(現、地域創生部文化財保護課、以下文化財保護課と略す)は、群馬県富岡土木事務所(以下富岡土木と略す)の照会を受け、重機を用いた試掘調査を実施した。その結果、事業地(富岡市上丹生地内)の発掘調査が一部必要であることを富岡土木に通知した。

令和2年5月、現地確認を行った結果、買収地以外の県有地も発掘対象にあることが判明した。同年6月県有地も発掘調査が行われることが決定された。

文化財保護課の調整を受け富岡土木と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約が締結され、令和2年7月1日より7月31日までの期間で発掘調査が実施されることとなった。



第1図 上丹生鷺谷戸遺跡と群馬県の地勢(20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」図幅を加工)

第2節 発掘調査の方法

1 調査区とグリッドの設定

調査は南北2つの調査区に分けて実施した。遺構番号は通し番号とした。

平面図を記録する測量用のグリッドは、 $5 \times 5\text{m}$ を基本とした。平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第九号)IX系を用い、座標値の下3桁で呼称した。例えば、X軸=43,930とY軸=-70,900の交点をそれぞれ930、-900と略し、この地点を南東隅とする $5\text{m} \times 5\text{m}$ の範囲を930-900グリッドと呼んだ。

2 基本土層

上丹生鷺谷戸遺跡の基本土層は南側調査区の290-240グリッドと北側調査区の310-250グリッド付近で確認したものである。

基本土層(A・B共通)

I 10YR4/1 褐灰色 表土、耕作土。粘性やや弱、しま

りやや弱。

II 10YR4/1 褐灰色 ロームブロックを多量に含む。近現代の造成による土層か。粘性やや弱、しまりやや弱。

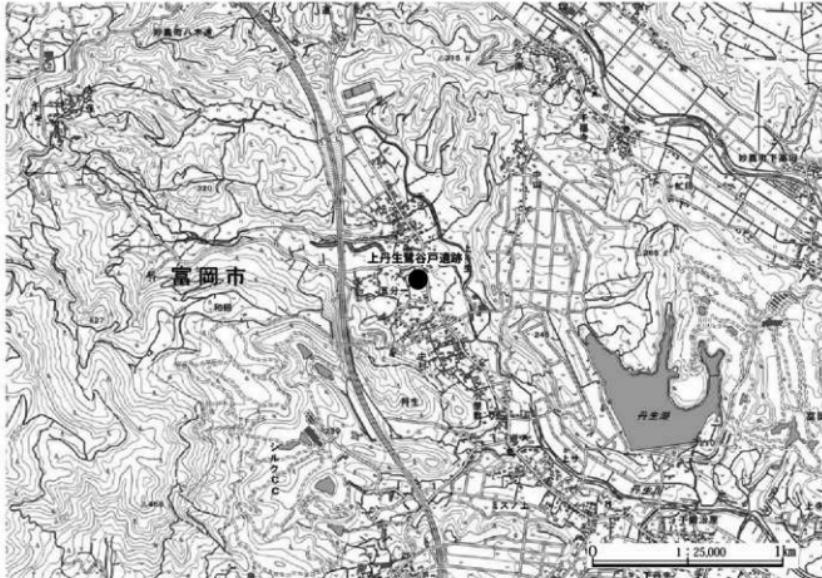
III 10YR4/1 褐灰色 遺物を少量含む。粘性やや弱、しまり中程度。

IV 10YR5/1 褐灰色 As-Bの2次堆積か。調査区南端部でのみ確認。粘性なし、しまりやや強。

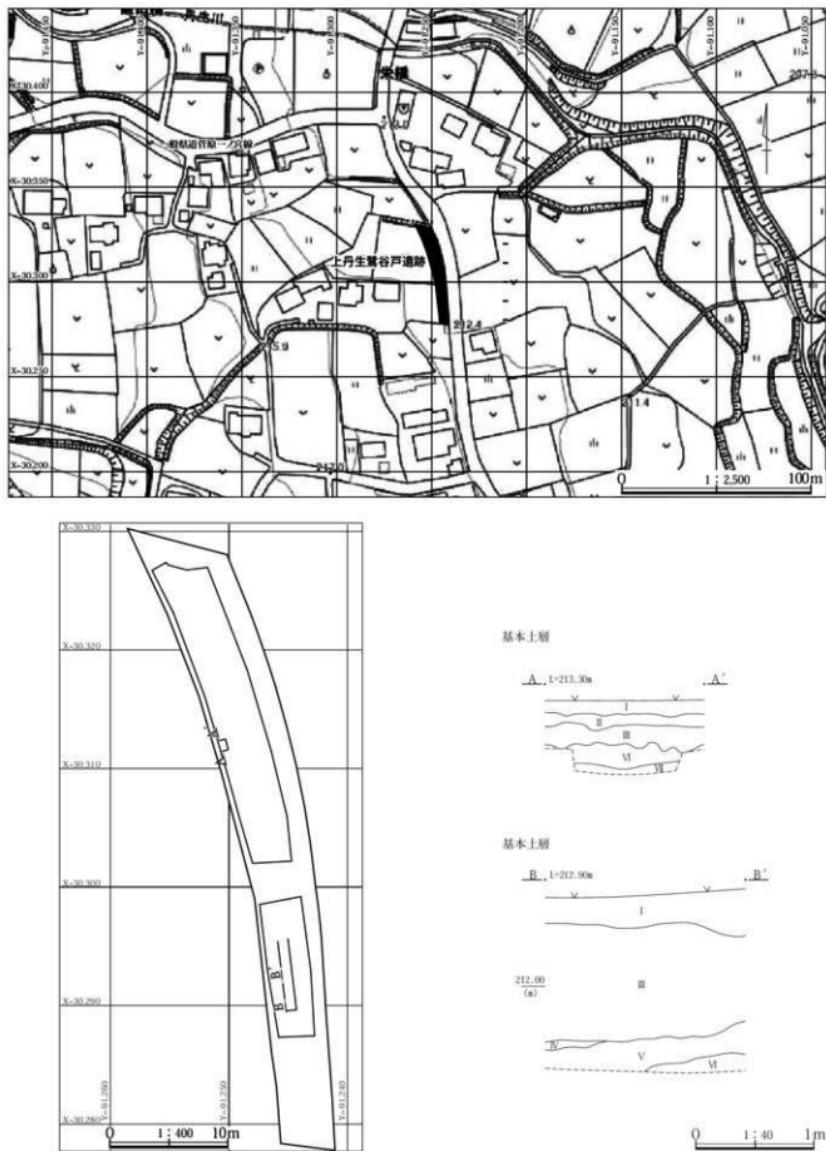
V 10YR3/1 黒褐色 砂質土。ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

VI 10YR6/4 にぶい黄橙色 黒褐色土の混在する汚れたローム。2次的に堆積したものか。粘性弱、しまり強。

VII 7.5YR6/6 橙色 粗粒のローム。As-YP粒が少量混じる。粘性弱、しまり強。



第2図 上丹生鷺谷戸遺跡の位置(国土地理院電子地形図1:25,000「松井田」「下仁田」を使用)



第3図 調査区(とみおかWebマップを使用)とグリッド設定図・基本土層

第3節 発掘調査の経過

上丹生鷺谷戸遺跡の調査は令和2年7月1日から7月31日まで実施した。

表土掘削はバッカフローで行い、基本土層Ⅲ層下面まで掘り下げた後、ジョレンを用いて遺構確認を行った。遺構の調査は移植ごて、竹べらと手ボウキを用いて丁寧に実施した。

遺構の測量は、測量業者に平・断面図とともに委託して行った。遺構の測量は原則として平面図は1/40、断面図は1/20で行った。

写真撮影は、35mmデジタルカメラでの撮影を行い、重要度のある遺構については、中判カメラを用いてモノクロフィルムでの撮影を行った。写真的デジタルデータは、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容に基づいてリネームを行ったのちに、HDとDVD-ROMに保存した。

調査経過の概略は以下のとおりである。

令和2年

- 7月1日 表土掘削開始。
- 2日 遺構確認および精査。
- 3日 穴穴建物調査開始。
- 9日 調査区北側全景写真撮影。
- 13日 旧石器確認調査、調査区南側・基本土層写真撮影。
- 14日 調査区南側トレンチ拡張、As-Bの2次堆積層を確認。南側に落ち込む谷地形と判明。
- 16日 1号穴穴建物全景写真撮影。
- 21日 調査区北・中部全景、1号穴穴建物写真撮影。
- 27日 埋め戻し開始。
- 31日 調査終了。

第4節 整理作業の経過

整理事業については、文化財保護課の調整を受け、富岡土木と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、令和3年4月1日に、事業の委託契約が交わされた。同4月1日より同事業団本部にて整理作業を開始した。

すでに洗浄・注記を済ませ、収納してあった遺物を遺構とその周辺遺構ごとに接合し、図化する個体を選定後、復元・写真撮影、実測・探査、観察作業を行った。

実測は三次元計測器や長焦点の実測用写真を併用しながら行った。土器はロットリングによるトレース後、スキャニングによりデジタル化したものである。遺物写真是35mmフルサイズのデジタルカメラにより撮影後、色調等を調整した。

遺構図は、調査段階でデジタルデータ化しており、これを編集して完成図面とした。また、遺構写真是、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、色調等の調整後デジタル入稿用データを作成した。

これらの作業と並行して本文および観察表と原稿を執筆し、デジタルデータ化した遺構図・遺物図とを合わせてアドビ社のインデザインによりデジタル入稿データを編集した。

5月31日に編集作業を完了し、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了した。そして令和3年7月に発掘調査報告書「上丹生鷺谷戸遺跡」を刊行した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

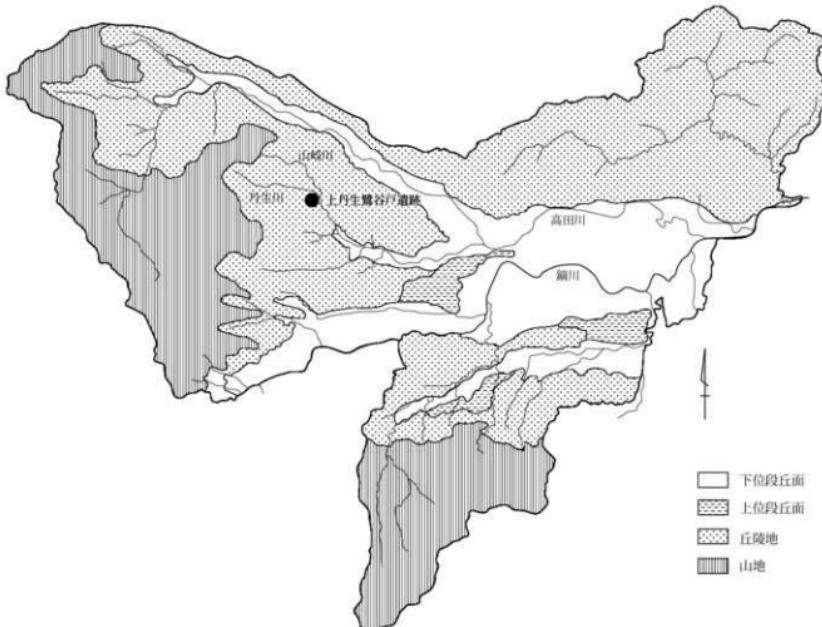
第1節 遺跡の地形と立地

上丹生鷺谷戸遺跡のある富岡市は群馬県の南西部に位置し、東西約18km、南北約14km、標高は市役所付近で166mである。世界文化遺産・国宝の「富岡製糸場」を擁し、北側を安中市、東側を高崎市、南東側を甘楽町、西側を下仁田町と接している。市南部と西部は山地に分類され、南部の山地は関東山地の北縁にある。妙義町と下仁田町の境界にある大析山から南東の鎌柄岳や破風前場にかけても険しい山地地形が広がっている。市の中央には西から東へ鎌川が流れ、複数の河川と合流しながらその両岸に河岸段丘を形成している。鎌川の段丘は、上下二段の段丘面があり、国道254号や上信電鉄が通る面が下位段丘面、富岡西中学校、貫前神社のある高台が上位段丘面である。

鎌川に合流する高田川と、高田川と合流する丹生川の間には、丘陵地が続いている。丹生川へ流入する谷は複雑に入りくみ、丹生貯水池付近でほぼ南北方向に並んでいる。丘頂面の標高はおよそ240mから300mである。上丹生地区の谷間は、水田として利用されている。

なお、丹生貯水池は、昭和11年から27年にかけて作られた人造湖で、甘楽・富岡地区的農業用水の貯水池として利用されている。湖面の標高は205mである。

遺跡は、上信越自動車道下仁田インターチェンジから北約3.7km、丹生川と山崎川の合流地点から西へ約200mの丘陵地上の富岡市上丹生に所在し、標高は213mである。



第4図 遺跡周辺の地形(富岡市史「自然編、原始・古代・中世編」P. 4をトレス)

第2節 周辺遺跡の分布

本遺跡の調査によって確認された遺構の時期は、古墳時代である。近年の開発により本格的な埋蔵文化財の発掘調査が増加し、古代の様子が明らかになりつつある。各時代の主な遺跡は、以下のとおりである。

旧石器時代 下仁田町下鎌田遺跡(40)の遺物集中からはナイフ形石器や彫器などが出土している。

縄文時代 前期の竪穴建物をはじめ、多くの遺跡が調査されている。千足遺跡(3)からは前期竪穴建物2・妙義町馬之宮遺跡(5)からは縄文中期阿玉台式・加曾利E式の土器破片や石器が多数表面採取されている。上丹生市子塚・山之上遺跡(8)から前期黒浜期1・中期加曾利E期8・後期堀ノ内期1、和田遺跡(15)から前期竪穴建物4・五分一遺跡(16)のトレンチから諸磧C式・加曾利E式土器が出土している。丹生城西遺跡(18)から縄文前期の破片、内出I遺跡(26)から前期竪穴建物4・宇田恵下原遺跡(28)から前期竪穴建物5・中期1、中沢平賀界戸遺跡(36)から竪穴建物、南蛇井増光寺遺跡(37)から竪穴建物、下鎌田遺跡(40)から竪穴建物221・石鐵製作などが確認されている。

弥生時代 関越自動車道(上越線)建設の調査をはじめとして、後期の集落の確認例が増加している。千足遺跡(3)から竪穴建物4・上丹生市子塚・山之上遺跡(8)から竪穴建物3・内出I遺跡(26)から方形周溝墓1・宇田恵下原遺跡(28)から竪穴建物3が調査された。また、中沢平賀界戸遺跡(36)から竪穴建物、南蛇井増光寺遺跡(37)から竪穴建物、下鎌田遺跡(40)から竪穴建物6・一之宮押出遺跡(30)から竪穴建物10・宮崎浦町遺跡(34)から竪穴建物7棟・銅鏡などが確認されている。

古墳時代 丘陵上には古墳群が点在し、下位段上に集落が展開している。千足遺跡(3)から竪穴建物3・終末期円墳1・馬之宮遺跡(5)から台付甕・石製模造品などが確認されている。和田遺跡(15)から竪穴建物1・上丹生市子塚・山之上遺跡(8)から竪穴建物36・下高田高鳥井遺跡(12)から竪穴建物・滑石製品や未製品、内出I遺跡(26)から竪穴建物13・古墳2・宇田恵下原遺跡(28)から竪穴建物3・滑石模造品・未製品500点以上、前畠遺跡(35)

から竪穴建物18・滑石製模造品・未製品等、滑石製品の供給元として特筆される。そのほか、中沢平賀界戸遺跡(36)から竪穴建物、南蛇井増光寺遺跡(37)から竪穴建物、下鎌田遺跡(40)から方形周溝墓1・竪穴建物10・一之宮押出遺跡(30)から竪穴建物7・宮崎浦町遺跡(34)から竪穴建物14などが調査された。古墳・古墳群としては、千足古墳群(4)、高田城跡(9)古墳1基、下高田鳥島遺跡(11)古墳1基、和田古墳群(14)古墳10基、金乗塚古墳(17)古墳1基(かつては3基)、丹生2号古墳(19)、山口古墳群(22)、丹生7号古墳ほか、丹生5号古墳(23)、丹生3・4号古墳(25)、南蛇井古墳群(38)、上小林古墳群(39)、神農原古墳群(43)などが上げられる。

奈良・平安時代 集落の確認例は少ない。千足遺跡(3)では竪穴建物9・掘立柱建物11・上丹生市子塚・山之上遺跡(8)では竪穴建物1・内出I遺跡(26)では竪穴建物2・宇田恵下原遺跡(28)では竪穴建物4・前畠遺跡(35)では竪穴建物8などが調査された。中沢平賀界戸遺跡(36)では竪穴建物、南蛇井増光寺遺跡(37)では竪穴建物、下鎌田遺跡(40)では竪穴建物4・宮崎浦町遺跡(34)では竪穴建物7・和田遺跡(15)では竪穴建物1などが確認されている。生産場として、下丹生小川遺跡(27)で水田が調査されている。

中・近世 丘陵地に城跡などが点在するが、調査例は多くない。千足遺跡(3)で中世溝・上丹生市子塚・山之上遺跡(8)で墓・宇田恵下原遺跡(28)で溝・南蛇井増光寺遺跡(37)で溝・井戸等、下鎌田遺跡(40)で建物・堀等、宮崎浦町遺跡(34)で井戸・溝等、丹生城西遺跡(18)で陶磁器破片・五分一遺跡(16)で内耳鍋・陶磁器など、高田城跡(9)で堀切2条と曲輪3か所、前期高田館(10)、丹生東城跡(20)、宇田城跡(21)、宮崎城跡(33)で掘立柱建物11などが確認されている。



第5図 周辺の遺跡(国土地理院電子地形図1:25,000「松井田」「下仁田」を使用)

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1表 上丹生鷺谷戸遺跡の周辺遺跡

No.	遺跡名	國文	弥生	古墳	奈良 平安	中・ 近世	近世	文 献
1	上丹生鷺谷戸遺跡			○				本報告
2	鄭土ヶ谷津の街							
3	千足遺跡	○	○	○	○	○		山武考古学研究所 1992「前畠道路、内出遺跡、丹生城西遺跡、五分一遺跡、千足遺跡」
4	千足古墳群			○				
5	馬之宮遺跡	○	○	○				妙義町誌編纂委員会1993『妙義町誌(上)』
6	早道場遺跡			○				富岡市史編纂委員会 1986「原始・古代・中世編」『富岡市誌』
7	中山遺跡	○						No.6と同一文献
8	上丹生市子塚・山上之上遺跡	○	○	○	○	○		富岡市教委 1996「上丹生市子塚山/山上之上遺跡発掘調査報告書」
9	高田城跡			○		○		山武考古学研究所 1999「高田城址」
10	前期高田館					○		妙義町教委「堀之内遺跡」『妙義東部道路群』Ⅱ 1989
11	下高田島畠遺跡			○				妙義町教委1987「道神遺跡、島畠遺跡、觀音寺遺跡」
12	下高田高鳥井遺跡			○	○			妙義町教委1989「堀之内遺跡、高鳥井遺跡、通船巷遺跡」
13	宇田山ノ根遺跡							
14	和田古墳群			○				
15	和田遺跡	○	○	○	○			山武考古学研究所 1994「和田遺跡」
16	五分一遺跡	○			○	○	○	No.3と同一文献
17	金秉塚古墳			○				
18	丹生城西遺跡	○		○	○	○		No.3と同一文献
19	丹生2号古墳			○				
20	丹生東城跡				○			No.6と同一文献
21	宇田城跡				○			山武考古学研究所 1990「宇田城址発掘調査報告書」
22	山口古墳群			○				No.6と同一文献
23	丹生5号古墳			○				
24	上ノ原遺跡	○						No.6と同一文献
25	丹生3・4号古墳			○				
26	内出1遺跡	○	○	○	○	○		No.3と同一文献
27	下丹生小川遺跡				○			
28	宇田惠下原遺跡	○	○	○	○	○		富岡市教委 2013「宇田惠下原遺跡」
29	惠下原遺跡							
30	之一宮押出遺跡	○	○					富岡市教委 1994「之一宮押出遺跡発掘調査報告書」
31	絞沼の岩跡							
32	神城跡							No.6と同一文献
33	宮崎城跡				○			山武考古学研究所 1995「群馬県富岡市宮崎城」
34	宮崎油町遺跡	○	○	○	○			富岡市教委 1999「宮崎油町遺跡」
35	前畠遺跡	○	○	○	○			No.3と同一文献
36	中沢平賀界戸遺跡	○	○	○	○			群理文 1996「中沢平賀界戸」『道路』
37	南蛇井増光寺遺跡	○	○	○	○	○		群理文 1992「南蛇井増光寺遺跡」ほか
38	南蛇井古墳群			○				No.6と同一文献
39	上小林古墳群				○			No.6と同一文献
40	下鍾田遺跡	○	○	○	○	○		山武考古学研究所 1997「下鍾田遺跡」下仁田町道路調査会他
41	仙瀬遺跡							山武考古学研究所 1994「仙瀬日遺跡・仙瀬日遺跡・仙瀬田遺跡」
42	大山遺跡							
43	神農原古墳群			○				No.6と同一文献

第3章 調査された遺構と遺物

第1節 調査の概要

上丹生鷺谷戸遺跡の調査は、令和2年7月に実施した。既存の道路の拡幅工事に伴う調査のため調査区は南北方向に細長く、幅6.5m、長さ50mほどである。調査範囲の中央部のX=30,305 ~ 30,315にかけてが最も標高が高く、南北に向かって低くなる地形である。

調査は表土下を第1面とし、南北二つの調査区に分割して実施した。検出された遺構は、竪穴建物1棟、土坑1基、ピット14基である。

遺構は調査区の北側に集中しており、竪穴建物は調査範囲のほぼ中央で検出した。

土坑は北側調査区の最南端で1基調査し、土師器甕が出土した。ピットは調査区北に集中しており、形状はほとんどが不正円形である。これらのうち、遺物の出土したピットは4・5・8・9・13・14号ピットで、土師器甕や甕の破片が出土した。

北側調査区ではロームの堆積が認められたため、トレンチを設定して旧石器確認調査を行ったが、遺物の検出には至らなかった。

南側調査区ではAs-Bの堆積が認められため、水田遺構を想定して精査したが、遺構を確認することができなかった。

第2節 遺構と遺物

(1) 竪穴建物

1号竪穴建物(第8・9図 PL. 2~7・11)

位置 X=30,307 ~ 30,311・Y=-91,245 ~ -91,249
重複 14号ピットが新しい。平面形 東側は未調査のため不明。

規模 長軸3.63m+ 短軸(3.94)m 残存壁高0.32m

床面積 11.68m² 主軸方位 N-15°-W

検出・埋没状況 表土を除去し、遺構確認面を精査したことろ、埋没土の輪郭を検出した。ローム粒を少量含む黒褐色土である。

柱穴 床面で主柱穴2本が検出された。主柱穴の規模は下記の通りである。

P 2 長径0.35m 短径0.29m 深さ0.41m

P 3 長径0.48m 短径0.31m 深さ0.26m

P 2・P 3の柱間の距離は1.72mである。

竈 北壁に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.99m、煙道部0.32m、燃焼部長0.67m、焚口幅(0.33)mである。カマド袖はロームブロック主体のにぶい黄褐色土を用いて構築され、左袖部が0.32m残存していた。竈からは土器は出土しなかったが煙道部には粗粒輝石安山岩の礫が残されていた。

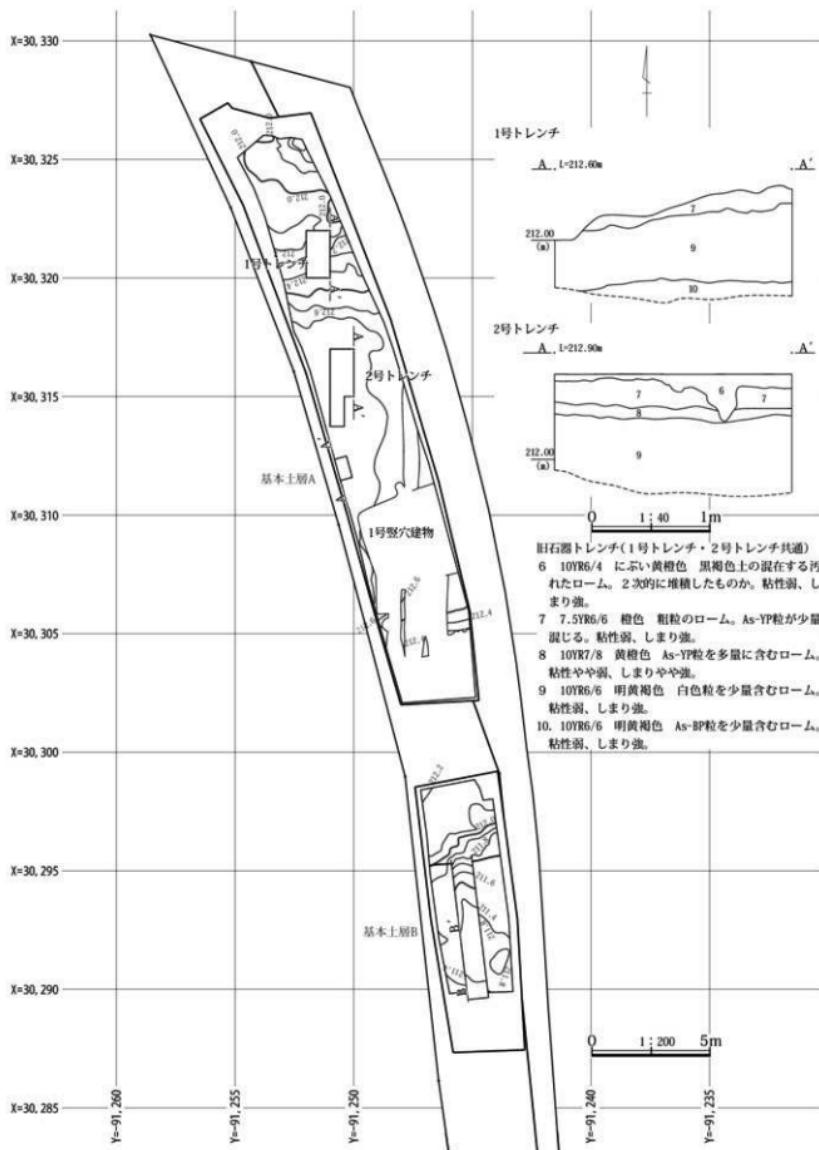
貯蔵穴 竪穴北東隅に長軸0.64m、短軸0.56m+、深さ0.36mの長方形の貯蔵穴が検出された。貯蔵穴埋没土はロームを含む灰黄褐色土が主体である。貯蔵穴のすぐ西側には深さ0.25mほどの落ち込みを有する。貯蔵穴からの出土遺物はない。

壁際溝 確認できなかった。

掘り方 床面から最大で厚さ0.35mほど下位で掘り方面を検出した。中央部はやや深く掘り込まれ、土坑状となっていた。四隅も約15cmほど掘り込まれている。掘り方は黒色土が主体で、ロームを多量に含んでいた。しかし、床面はあまり硬化しておらず、認識しにくい状況であった。

遺物と出土状況 図示できた土器は土師器杯3点と鉢1点であった。土師器杯(1)は古墳時代後期に県内で広く見られる形態であるが、杯(2・3)は、口縁部が中位で屈曲し、上半が内湾するように立ち上がる特異な形態である。なお、(3)は内外面とも焼成が施されている。出土遺物の年代は、(1)の土師器杯が稜下から底部の間が浅くなることから6世紀末から7世紀前半の年代観が与えられる。また、土師器甕は図示できる個体が残存していないかったが、口縁部や胴部の破片を見ると6世紀後半代が主であると見られ、(1)の土師器杯とほぼ同時期である。

調査所見 出土遺物から7世紀前半の竪穴建物と考えられる。



第6図 旧石器の調査

(2) 土坑・ピット

1号土坑(第10図 PL. 7・11)

位置 X=30.305 Y=-91.248

重複 なし。

平面形 ほぼ円形 長軸方位 N-74°-W

規模 長軸0.61m+ 短軸(0.59)m 深さ0.61m

検出・埋没状況 第1面で検出した。埋土はロームブロック含む黒褐色土を主体とし、自然埋没していた。上層には焼土を多量に含んでいた。断面形は台形である。

出土遺物 図示した土師器甕は形態から8世紀第3四半期に年代観が与えられる。図示できなかった破片は土師器甕が5点であるが、そのうち3点は図示した甕の胸部分と見られる。

調査所見 出土遺物から、時期は8世紀第3四半期と考えられる。

1号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30.323 Y=-90.253 ~ 254

重複 2号ピットに後出す。

平面形 不明 長軸方位 N-22°-W

規模 長軸(0.29)m 短軸0.13m+ 深さ1.03m

検出・埋没状況 埋土は、ロームブロック・焼土含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

2号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30.322 ~ 30323 Y=-90.253

重複 1号ピットに先行する。

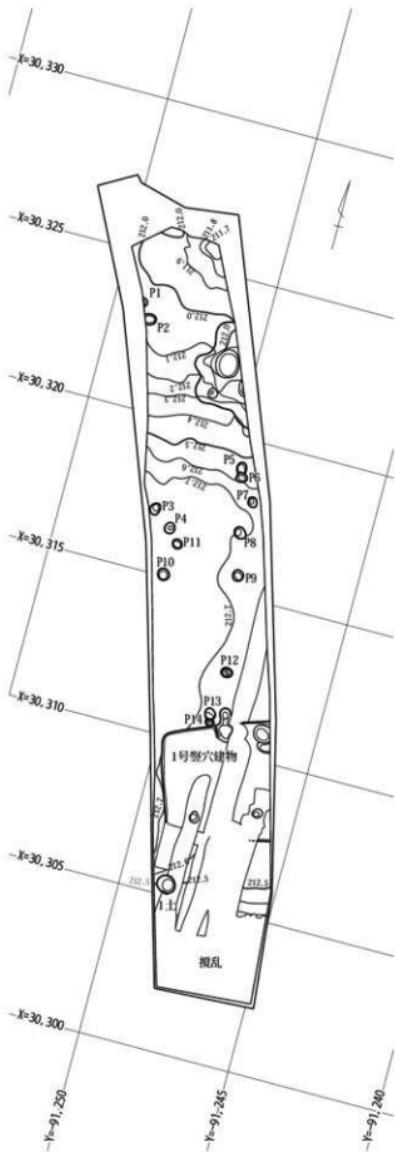
平面形 不明 長軸方位 N-78°-E

規模 長軸0.36m+ 短軸0.36m 深さ0.68m

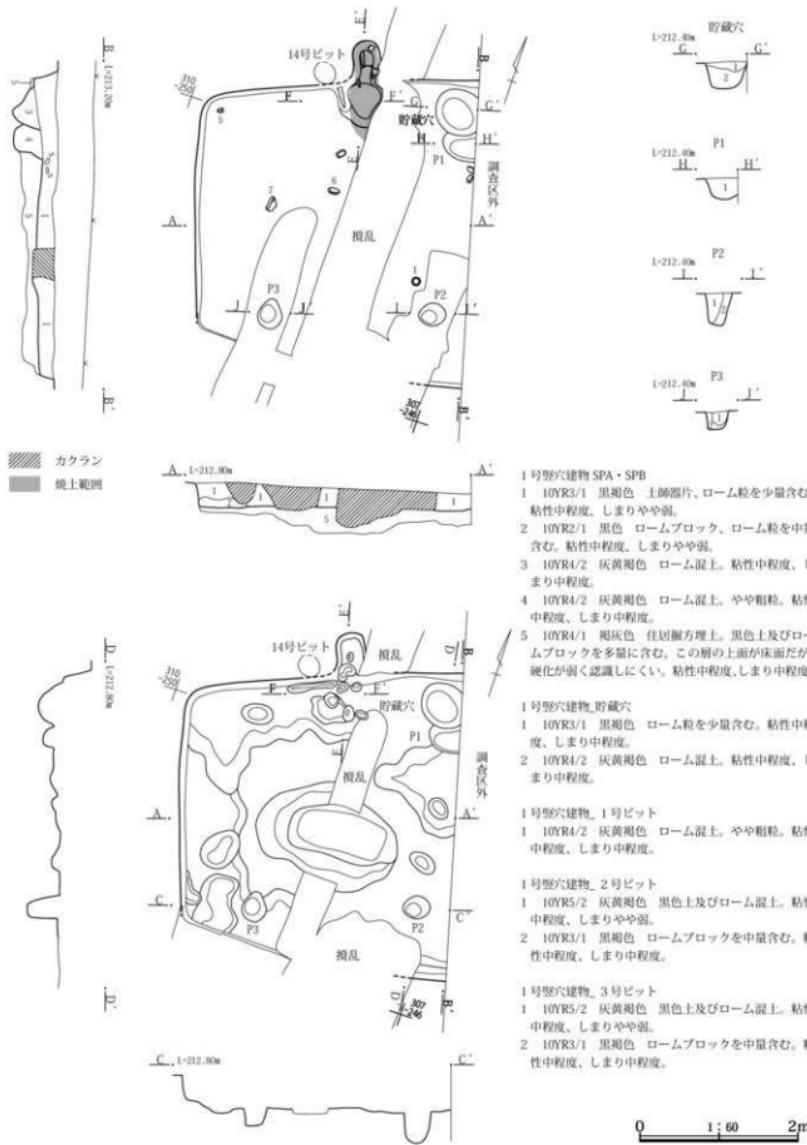
検出・埋没状況 埋土は、ローム粒含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。



第7図 遺構全体図



第8図 1号堅穴建物



第9図 1号窓穴建物カマドと1号窓穴建物出土遺物

第3章 調査された遺構と遺物

3号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30,316～317 Y=-90,251～252

重複 なし。

平面形 楕円形 長軸方位 N-21°-E

規模 長軸0.40m 短軸0.32m 深さ0.42m

検出・埋没状況 墓土は、ロームブロックを含む褐色灰色土を主体とする。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代遺構と考えられるが、詳細は不明である。

4号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30,316 Y=-90,251

重複 なし。

平面形 ほぼ円形 長軸方位 N-15°-E

規模 長軸0.36m 短軸0.32m 深さ0.64m

検出・埋没状況 墓土は、焼土粒を含む褐色灰色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は逆三角形である。

出土遺物 墓土中から、土師器杯底部片(第10図2)と壺口縁片(第10図3)が出土した。図示した土師器杯、壺とも小片のため詳細は不明である。土師器杯は底部が平底化しているが、比較的器壁が厚い、土師器壺は残存部下位に屈曲が見られないことから2点とも8世紀後半代の年代観が与えられる。

調査所見 遺構の検出状況および出土遺物から、時期は8世紀後半と考えられる。

5号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30,318～319 Y=-90,249

重複 6号ピットに先行する。

平面形 楕円形 長軸方位 N-15°-W

規模 長軸0.41m+ 短軸0.30m 深さ0.22m

検出・埋没状況 墓土は、黒褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 墓土中から土師器壺片が出土したが、図示には至らなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

6号ピット(第10図 PL. 8)

位置 X=30,318 Y=-90,249

重複 5号ピットに後出する。

平面形 不整形 長軸方位 N-83°-W

規模 長軸0.35m 短軸0.28m 深さ0.25m

検出・埋没状況 墓土は、ローム粒を含む褐色灰色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

7号ピット(第10図 PL. 8・9)

位置 X=30,317～318 Y=-90,248～249

重複 なし。

平面形 楕円形 長軸方位 N-21°-W

規模 長軸0.34m 短軸0.28m 深さ0.39m

検出・埋没状況 墓土は、褐色灰色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

8号ピット(第11図 PL. 9)

位置 X=30,316～317 Y=-90,248～249

重複 なし。

平面形 楕円形 長軸方位 N-58°-W

規模 長軸0.41m 短軸0.35m 深さ0.65m

検出・埋没状況 墓土は、ローム粒を含む褐色灰色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は逆三角である。

出土遺物 墓土中から土師器杯・壺の小片が出土したが図示には至らなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

9号ピット(第11図 PL. 9)

位置 X=30,315 Y=-90,248

重複 なし。

平面形 ほぼ円形 長軸方位 N-13°-W

規模 長軸0.37m 短軸0.35m 深さ0.46m
検出・埋没状況 ロームブロックを含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 埋土中から土師器杯口縁部片(第11図4)が出土した。図示した土師器杯の年代観は9世紀末から10世紀初頭と見られる。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は10世紀初頭以降と考えられる。

10号ピット(第11図 PL.9)

位置 X=30,314～315 Y=-90,250～251

重複 なし。

平面形 ほぼ円形。 **長軸方位** N-18°-W

規模 長軸0.39m 短軸0.37m 深さ0.42m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は長方形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

11号ピット(第11図 PL.9・10)

位置 X=30,315～316 Y=-90,250～251

重複 なし。

平面形 ほぼ円形。 **長軸方位** N-71°-W

規模 長軸0.34m 短軸0.30m 深さ0.29m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

12号ピット(第11図 PL.10)

位置 X=30,312 Y=-90,248

重複 なし。

平面形 楕円形。 **長軸方位** N-88°-W

規模 長軸(0.38)m 短軸(0.32)m 深さ0.64m

検出・埋没状況 埋土はローム粒を含む褐色土を主体

とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

13号ピット(第11図 PL.10)

位置 X=30,310～311 Y=-90,248

重複 14号ピットに後出す。

平面形 不明 **長軸方位** N-21°-W

規模 長軸(0.37)m 短軸0.33m 深さ0.58m

検出・埋没状況 埋土は、ロームブロックを含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物 埋土中から、土師器杯・甕の小片が出土したが、図示には至らなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

14号ピット(第11図 PL.10)

位置 X=30,310 Y=-90,248

重複 13号ピットに先行、1号竪穴建物に後出す。

平面形 楕円形か。 **長軸方位** N-79°-W

規模 長軸0.29m 短軸0.23m+ 深さ0.53m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む褐色土を主体とする。人為的な埋没と考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物 埋土中から、土師器甕片が出土したが、図示には至らなかった。

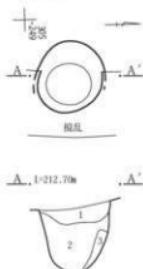
調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は奈良・平安時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

(3) 遺構外出土遺物(第11図)

遺構外出土遺物のうち、図示できたものは土師器3点である。

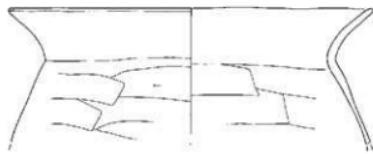
調査区北、X=30,322・Y=-90,250付近のやや落ち込んだ地点で、須恵器杯(第11図5)と須恵器有台杯(第11図6)が出土した。そのほか土師器甕脛部片(第11図7)が出土した。

1号土坑

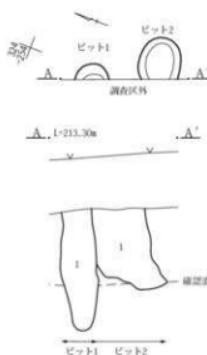


1号土坑

- 1 5YR4/2 灰褐色 焼土を多量に含み、土師器片が少量混じる。粘性やや弱、しまり中程度。
- 2 10YR3/2 黒褐色 焼土を中量、ローム粒を少量含む。粘性中程度、しまり中程度。
- 3 10YR3/2 黒褐色 ロームブロックを多量に含む。粘性中程度、しまり中程度。



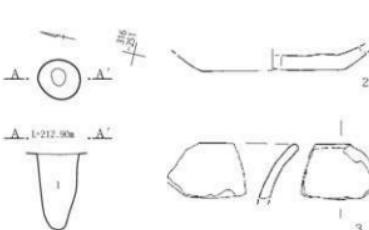
1・2号ビット



3号ビット



4号ビット



1号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 5cm大のロームブロックを少量、焼土を微量に含む。下部は空洞化している。粘性中程度、しまり中程度。

2号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 ローム粒を少量含む。粘性中程度、しまり中程度。

3号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 5cm大のロームブロックを中量含む。粘性中程度、しまりやや強。

4号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 烧土粒、土師器片を微量含む。粘性中程度、しまりやや強。

5号ビット

- 1 10YR3/1 黒褐色 粘性中程度、しまり中程度。新田関係：5→6

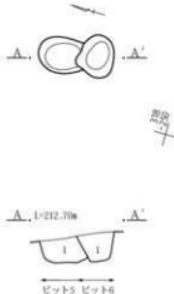
6号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 ローム粒を少量含む。粘性中程度、しまり中程度。新田関係：5→6

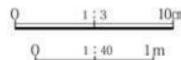
7号ビット

- 1 10YR4/1 周灰色 粘性中程度、しまり中程度。

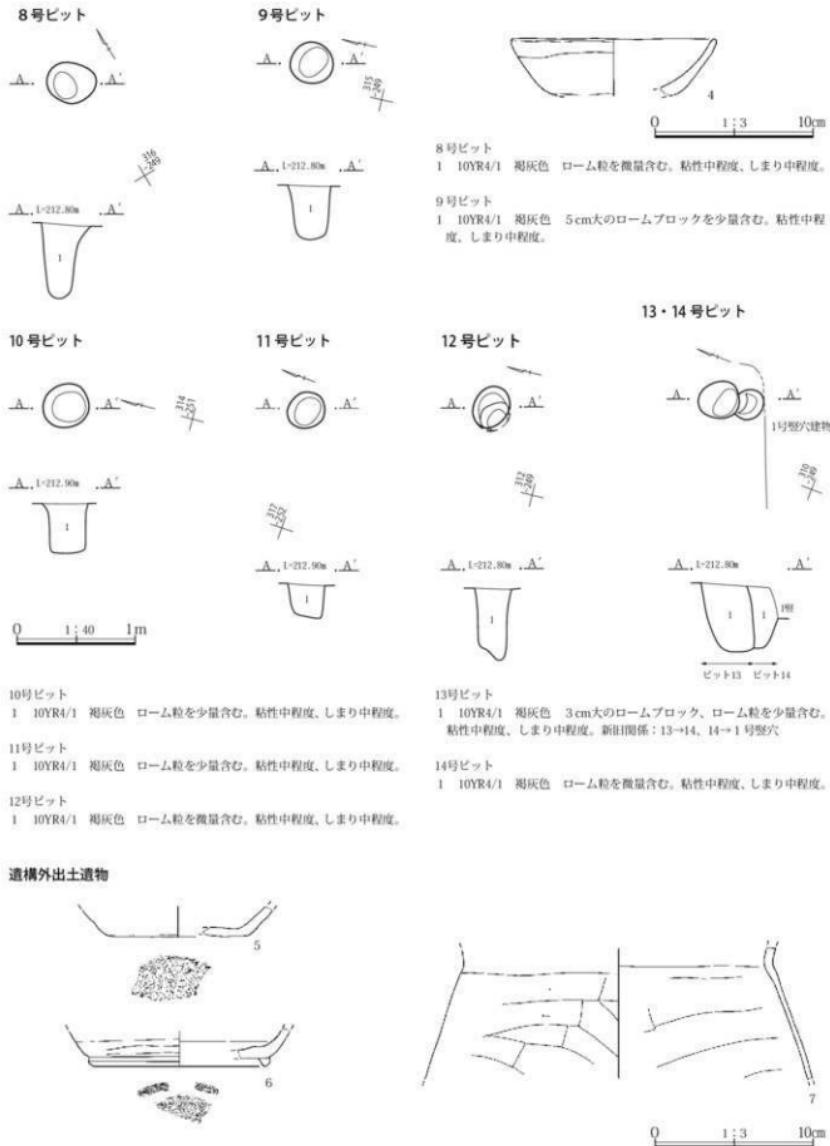
5・6号ビット



7号ビット



第10図 1号土坑と1～7号ビットと出土遺物



第11図 8～14号ピットと出土遺物、遺構外出土遺物

第3章 調査された遺構と遺物

第2表 土坑・ピット一覧表

遺構名	X座標	Y座標	平面形状	長軸	短軸	深さ	時期・備考
1号土坑	30,305	-90,248	ほぼ円形	0.61+(0.59)	0.61	8世紀第3四半期	
1号ピット	30,323	-90,253 - 90,254	不明	(0.29)	0.13+	1.03	奈良・平安時代以降
2号ピット	30,322 + 30,323	-90,253	不明	0.36+	0.36	0.68	奈良・平安時代以降
3号ピット	30,316 + 30,317	-90,251 - 90,252	楕円形	0.40	0.32	0.42	奈良・平安時代以降
4号ピット	30,316	-90,251	ほぼ円形	0.36	0.32	0.64	8世紀後半
5号ピット	30,318 + 30,319	-90,249	楕円形か	0.41+	0.30	0.22	奈良・平安時代以降
6号ピット	30,318	-90,249	不整形	0.35	0.28	0.25	奈良・平安時代以降
7号ピット	30,317 + 30,318	-90,248 - 90,249	楕円形	0.34	0.28	0.39	奈良・平安時代以降
8号ピット	30,316 + 30,317	-90,248 - 90,249	楕円形	0.41	0.35	0.65	奈良・平安時代以降
9号ピット	30,315	-90,248	ほぼ円形	0.37	0.35	0.46	10世紀初頭
10号ピット	30,314 + 30,315	-90,250 - 90,251	ほぼ円形	0.39	0.37	0.42	奈良・平安時代以降
11号ピット	30,315 + 316	-90,250 - 90,251	ほぼ円形	0.34	0.30	0.29	奈良・平安時代以降
12号ピット	30,312	-90,248	楕円形	(0.38)	(0.32)	0.64	奈良・平安時代以降
13号ピット	30,310 + 30,311	-90,248	不明	(0.37)	0.33	0.58	奈良・平安時代以降
14号ピット	30,310	-90,248	楕円形か	0.29	0.23+	0.53	奈良・平安時代以降

第3表 出土遺物観察表

1号堅穴建物出土遺物

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			口	底			
第9回 PL.11	1 上飾器 杯	完形	口 11.1 底 10.0	幅 4.1	細砂粒/良好/楕	口縁部は横ナデ、底から底部は手持ちハラ削り。	
第9回 PL.11	2 上飾器 杯	1 / 4	口 12.6 底 11.6	幅 4.0	細砂粒/良好/楕	口縁部は横ナデ。底から下部は手持ちハラ削り。口縁部は中位で屈曲し、上半が僅かに内湾する。	
第9回 PL.11	3 上飾器 杯	体部～底部	口 14.2 底 13.6	幅 4.0	細砂粒/良好・燃 灰黄	細砂粒は横ナデ、底下は手持ちハラ削り。口縁部は中位で屈曲し、上半が僅かに内湾する。	
第9回 PL.11	4 跖	口縁部～体部片	口 19.6	幅 5.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/浅黄	口縁部は横ナデ。体部は手持ちハラ削り。内面は体部にヘラナデ。	
第9回 PL.11	5 磨石		長 (7.4) 幅 (6.1)	厚 (4.6) 重 322.3	粗粒輝石安山岩	右辺側縁が大きく磨り減り、典型的な段階磨き機能面が形成されている。掌サインの棒状跡を用いる。	
第9回 PL.11	6 敲石		長 15.0 幅 7.4	厚 5.9 重 901.4	粗粒輝石安山岩	縫接部3ヶ所に打痕が残る。縫面全面が均等に擦れてい る。手グリのようなものか。	
第9回 PL.11	7 台石?		長 (19.0) 幅 (10.0)	厚 (6.5) 重 1577.6	粗粒輝石安山岩	背面側の平坦面全面が弱く摩耗する。裏面側は分割面と になっているが、被熱剥落痕が見られる。	

1号土坑出土遺物

第10回 PL.11	1 上飾器 費	口縁部～胸部上位片	口	22.8	幅	細砂粒/良好/明黃 褐	口縁部は横ナデ、胸部はヘラ削り。内面胸部はヘラナデ。
4号ピット出土遺物							
第10回	2 上飾器 杯	底部片	底	9.1		細砂粒/良好/楕	底部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不明。
第10回	3 上飾器 杯	口縁部片				細砂粒/良好/楕	口縁部は横ナデ。

9号ピット出土遺物

第11回 PL.11	4 上飾器 杯	口縁部～体部片	口	12.8	底	8.0	細砂粒/良好/楕	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削りか。
---------------	------------	---------	---	------	---	-----	----------	----------------------------

遺構外出土遺物

第11回 PL.11	5 頭部器 杯	底部～体部片	底	9.0			細砂粒/還元焰/灰 白	クロコ整形、回転は右回りか。底部の切り離し技法不明。
第11回 PL.11	6 頭部器 有台杯	底部～体部片	底	11.4			細砂粒/還元焰/灰 白	クロコ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、高 台は貼付。
第11回 PL.11	7 上飾器 費	頭部～胸部上位片	頭	19.6			細砂粒/良好/明赤 褐	頭部は横ナデ、胸部はヘラ削り。内面胸部はヘラナデ。

第3節 調査のまとめ

上丹生鷺谷戸遺跡の調査は、令和2年7月に実施した。遺跡は、丹生川の右岸の比較的平坦な丘陵地上に位置し、現在は集落が広がっている。今回の調査は範囲が限られていたため、遺構量は竪穴建物1棟、土坑1基、ビット14基と少ない。これらのうち時期を比定できた遺構は、1号竪穴建物、1号土坑、4号ビット、9号ビットである。

1号竪穴建物の図示できた遺物は、土師器杯3点・鉢、1点であった。このうち杯(No. 1)は、6世紀末から7世紀前半の所産である。土師器甕についても小片が出土していて、その年代は6世紀後半代が主である。1号土坑出土の土師器甕と4号ビット出土の土師器杯・甕は奈良時代、9号ビット出土の土師器杯は平安時代の所産である。よって遺跡周辺は、古墳時代後半から奈良・平安時代にかけて集落の存在が推定できる。

遺跡周辺の集落に目を向けてみると、関越自動車道(上越線)(現：上信越自動車道)の建設工事に伴う千足遺跡の調査では、古墳時代中期～後期にかけての竪穴建物が

3棟調査された。

また、山崎川の左岸、水面より30m程高い丘陵地上に上丹生市子塚・山ノ上遺跡が存在する。遺跡は、道路建設に伴い、平成2年から3年にかけて調査された。検出された竪穴建物のうち14棟にカマドが認められた。市子塚11号竪穴建物からは、白玉51点がまとまって出土している。遺跡全体では、縄文の竪穴建物10棟、弥生3棟、古墳36棟、平安1棟である。限定された範囲の調査であるとはいっても、比較的まとまった竪穴建物が検出されたことから、丘陵地上には断続的に集落が営まれてきたのであろう。

今回の調査では調査範囲が限定され、遺構量・遺物量とも少なかったため、本遺跡と周辺遺跡の関係について詳細に述べるに至らなかった。今後の調査・研究によって当該地域の歴史が一層解明されることを期待したい。

参考文献

「前堀遺跡 内出1道路 丹生城西遺跡 五分一道路 千足遺跡」 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 山武考古学研究所 1992

『上丹生市子塚・山ノ上遺跡発掘調査報告書』 富岡市教育委員会1996



第12図 上丹生鷺谷戸遺跡と周辺遺跡の古墳時代竪穴建物(国土地理院空中写真1975年を使用)

写 真 図 版



1 基本土層A 土層断面(東より)



2 基本土層B 土層断面①(東より)



3 基本土層B 土層断面②(東より)



4 基本土層B 土層断面③(東より)



5 調査区南側全景(南より)



1 旧石器2号トレンチ全景(南より)



2 旧石器1号トレンチ土層断面(西より)



3 旧石器2号トレンチ土層断面(西より)



4 1号堅穴建物調査風景(南東より)



5 1号堅穴建物全景(北より)



1 1号堅穴建物全景(南より)



2 1号堅穴建物調査風景(西より)



1 1号竖穴建物全景(南西より)



2 1号竖穴建物土層断面A-A' (南より)



3 1号竖穴建物土層断面B-B' (西より)



4 1号竖穴建物カマド土層断面E-E' (東より)



5 1号竖穴建物カマド土層断面F-F' (南より)



1 1号竪穴建物力マド全景(南より)



2 1号竪穴建物貯藏穴土層断面(南より)



3 1号竪穴建物貯藏穴・P 1全景(西より)



4 1号竪穴建物 P 2 土層断面(南より)



5 1号竪穴建物 P 2 全景(南より)



6 1号竪穴建物 P 3 土層断面(南より)



7 1号竪穴建物 P 3 全景(南より)



8 1号竪穴建物床下土坑全景(南より)



1 1号竪穴建物掘方土層断面A-A'（南より）



2 1号竪穴建物掘方土層断面B-B'（西より）



3 1号竪穴建物掘方全景（南西より）



4 1号竪穴建物カマド掘方土層断面E-E'（東より）



5 1号竪穴建物カマド掘方土層断面F-F'（南より）



1 1号竪穴建物カマド掘方全景(南より)



2 1号竪穴建物遺物出土状態



3 調査区北側全景(南より)



4 1号土坑土断面(東より)



5 1号土坑全景(東より)



1 1号ピット・2号ピット土層断面(東より)



2 3号ピット土層断面(東より)



3 3号ピット全景(東より)



4 4号ピット土層断面(東より)



5 4号ピット全景(東より)



6 5ピット・6号ピット土層断面(西より)



7 5ピット・6号ピット全景(西より)



8 7号ピット土層断面(西より)



1 7号ピット全景(西より)



2 8号ピット土層断面(東より)



3 8号ピット全景(東より)



4 9号ピット土層断面(東より)



5 9号ピット全景(東より)



6 10号ピット土層断面(東より)



7 10号ピット全景(東より)



8 11号ピット土層断面(東より)



1 11号ピット全景(東より)



2 12号ピット土層断面(東より)



3 12号ピット全景(東より)



4 13号ピット・14号ピット土層断面(東より)



5 13号ピット・14号ピット全景(東より)



6 上丹生鷺谷戸遺跡の現況(令和3年5月撮影)

1号竖穴建物出土遗物



1



2



4



5



6



7

1号土坑出土遗物



1

上丹生鷺谷戸遺跡出土遺物

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	かみにゅうさぎかいといせき
書名	上丹生鷺谷戸遺跡
副書名	(主)下仁田安中倉測隙(上丹生工区)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	一
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	691
編著者名	齊田智彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	202101**
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	かみにゅうさぎかいといせき
遺跡名	上丹生鷺谷戸遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんとみおかしかみにゅうあざさぎかいと
遺跡所在地	群馬県富岡市上丹生字鷺谷戸
市町村コード	10210
遺跡番号	T272
北緯(世界測地系)	361608
東経(世界測地系)	1384903
調査期間	20200701-20200731
調査面積	197.45
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	古墳/
遺跡概要	古墳・竪穴建物1・土坑1・ビット14・須恵器・土師器・石製品
特記事項	なし
要約	本遺跡は、丹生川右岸の丘陵地上に位置する。古墳時代後期の竪穴建物1棟を検出し、土師器・甕が出土した。このほかほぼ同時期の土坑とビットを確認した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第691集

上丹生鷺谷戸遺跡

(主)下仁田安中倉測線(上丹生工区)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年7月5日 印刷
令和3(2021)年7月16日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社

